

<授業実践ブロック>

6 ふるさとの歴史を調べて、みんなに伝えよう

小郡町立小郡南小学校
教諭 村崎 賢一

(1) 研究の意図

平成14年度から、完全実施となる新学習指導要領において、総合的な学習の時間の設置は大きな変革である。本校では、完全実施に備え平成12年度から、年間70時間を総合的な学習の時間、通称「みなみタイム」を日課表に位置付け、取り組んでいる。また、この時間は弾力的に運用してもよいことを共通理解している。

その中で、本校の6年生は、「ふるさとの歴史を調べて、みんなに伝えよう」というテーマを設定し、学習に取り組んだ。この学習を進めていくにあたって、次の3点を重要な研究課題として実践していくことにした。

- ・総合的な学習の時間でしか取り組めない内容を精選し、合科的・横断的な学習を仕組むことによって、児童にとって魅力ある授業作りに努める。(児童にとって魅力ある授業)
- ・直接的な学習体験を重視することによって、よりよく問題を解決する資質や能力、主体的な学び方やものの考え方を身に付けさせる。(情報活用の実践力)
- ・情報機器を積極的に取り入れることによって、その特性を理解させ、必要に応じて効果的に活用する能力を身に付けさせる。(情報の科学的な理解)

以上の3点は、今後、総合的な学習の時間を進めていく上で非常に重要な課題と考えられる。また、この実践の主な特徴として、特に情報教育に力を入れたことが挙げられる(図54)。本校は、平成12年度より、コンピュータルームに20台の児童用コンピュータが導入され、室内LANで結ばれている。ただ、それらの機器を私も含めて多くの先生方がうま

く利用しきっていないというのが現状である。

そこで、教育研修所と協力して授業に取り組むことで、児童は失敗を恐れずに情報機器を使うことができるのではないかと考えた。

(2) 研究の内容

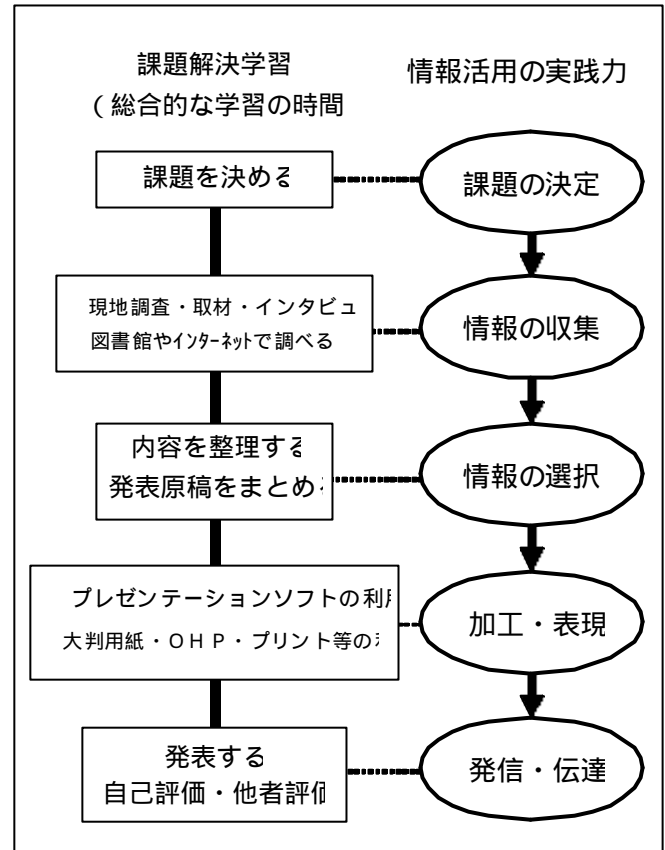


図54 問題解決学習と情報教育の関連

ア テーマの決定

初めて歴史学習と出会う第6学年の児童が、ふるさとの歴史的な価値やよさに気付き、自分のふるさとに誇りをもってほしいという強い願いをこめて教師サイドで決定した。

イ テーマ設定の理由

この学習では、歴史に関する詳しい知識を身に付けることを目標とするのではなく、まず、歴史に対する興味・関心を児童一人一人にもってほしい。さらに、郷土の歴史を知ることによって自分のふるさとに誇りをもってほしい、という願いがある。自国のよさを知することは、他国のよさを理解することにもつながり、国際理解のもとになるのではないかと

と考える。また、ふるさとの歴史を知ることが「自分がなぜここにいるのか。」という歴史的なつながりを体で感じることで、自己の生き方を見つめ直すきっかけになってくれるのではないかなと思う。

次に、総合的な学習の時間は、「自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力」を育てることをねらいとしている。そこで、テーマと学習活動の大まかな流れのみを児童に提示し、それ以外の活動はすべて児童の主体性に任せることにした。そして、この学習を進めていく過程で児童が必ず解決していかなければならない学習場面をいくつか設定し、そこで問題解決能力を身に付けさせたいと考えた。

そして、情報収集や加工・表現の学習では、コンピュータやインターネット、デジタル

カメラなどの情報通信機器を活用させることにより、その有効性や利便性を体感させたい。児童が、情報機器に慣れ親しむだけでなく、ある程度使いこなせるようになってほしい、という強い願いがそこにある。

ウ 支援の工夫（表25）

(ア) 一人一人の学習を深める工夫

- ・児童主体の学習を進めることによって、児童の学びに共感し、ともに追求し合い、ともに創るという姿勢を貫く。
- ・自ら課題を見つけ、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決しようとする児童を賞賛することによって、そのよさを全体に広める。
- ・児童の疑問や質問に対して、再度問い返し、もう一度考えさせることによってものの考え方や学び方を身に付けさせる。

表25 「ふるさとの歴史を調べて、みんなに伝えよう」全体計画

学習活動と子供の意識の流れ	時間	教師の支援		
【遺跡発掘に出かけよう】 遺跡の発掘現場に行き、発掘作業を体験する。 ・初めてだな。わくわくするね。 ・発掘現場っていったいどんな所かな。	第1次 4	社会科で学習したことを思い出させ、遺跡の発掘を体験できる喜びを味わわせるとともに、お世話になった方へ感謝の気持ちをもたせる。		駅に行き調べてみる時のマナーや電話で事前に確認する場合の言葉遣いなど、けじめのある行動が見られたら賞賛し合い、コミュニケーション能力を高める。
【ふるさとの歴史を調べよう】 - テーマを知る。 ・おもしろそうだな。 ・どんな歴史が見つかるのかな。 - グループのメンバーや調査場所を決める。 ・どうやってグループを決めたいかな。 ・知らないところが多いな。どこを調べようかな。 - 調査する場所に関する時代背景や人物などについて本やインターネットで調べる。 ・この人は何をしていた人かな。 ・この時代にはどんなことがあったのかな。 ・本やインターネットではよくわからないね。 - 現地調査のタイムテーブルを作成する。 ・どの乗り物で行こうか。 ・バスや電車の時刻や運賃を調べよう。	第2次 26 (2)	- おおまかな学習の流れを書いた紙を掲示することにより、これからの活動の見通しを一人ひとりに持たせる。また、今の活動が全体の中でどの位置にあるのかを常に意識付けさせる。 5万分の1の地図や史跡や文化財の名前や時代、関係する人物名を書いたプリントを準備しておき調査の対象となる物や場所がわかるようにする。 - グループ活動が中心になるため、一人一人の活動を把握し、反省させるためにマイカードを持たせ毎時間記入させる。 - これからの長時間にわたる活動に対して興味や意欲を持続させるために、グループ作りや調査場所の選定は時間をかけて子供たちが納得いくまで話し合わせる。しかし、引率者の確保と全員が活動できることを考慮して、「1グループの人数は4～5人」という条件は前もって知らせておく。 - 各グループにパネル1枚ほど割り当て、調べてわかったことなどを掲示するようにし、情報交換の場として活用させる。 - グループの中で誰が何を調べるのが役割を明確にさせ、全員で取り組ませる。 - あまり知られていない人物や史跡については、資料が少ないと予想される。図書室やインターネットで調べる時のポイントなどを適時、助言する。 - 調査に時間を確保するために無理のない日程と、雨天時の場合の日程を考えさせたい。 - 入館料や写真撮影の許可が必要な場合があることを知らせ、タイムテーブルを作成させる。	(5)	- 引率者として保護者のボランティアを募り、親子で現地調査に行けるように分担する。また、引率の方への感謝の気持ちを忘れず、礼儀正しく接するように心掛けさせる。 - 各グループの引率者には、安全対策として救急セットと携帯電話を持たせる。電話での定期連絡を行うとともに、緊急連絡網を作成し持たせる。
		【みんなに伝えよう】 - 発表の準備をする。 ・パワーポイントってどんなものだろう。 ・誰がどこを発表しようかな。 ・どの写真を使ったらいいかな。 ・メモを見ながら原稿を書こう。 ・大判用紙にも大切なことを書きたいな。 - 発表のリハーサルをする。 ・じょうずにコンピュータが動かせるかな。 ・声の大きさはいいかな。 - 発表会をする。 ・しっかり聞いてほしいね。 ・よくわからないから質問し見ようかな。	第3次 12 (8)	- パワーポイントがどんなものであるかを実際に見せてから、発表の計画を立てさせる。 - コンピュータ指導に研修所職員を招く。 - 現地調査だけでなく、事前調査の内容も発表に生かせることに気付かせる。 - 全員がコンピュータを使えるようにするために、グループを2つに分け前半と後半で原稿作成とコンピュータを交代させる。 - 伝えたいことを聞く人によくわかるように発表するためにどんな事に気をつけたらいいか考えさせ、工夫させる。 - 発表会の進行は子供に任せ、自分たちが発表会の主役であることを意識付けさせる。 - 自己評価だけでなくグループの相互評価ができるように評価カードを持たせる。
		【学習のまとめとふり振り返り】 - 歴史講演を聴く。 - 活動を振り返り、作文に書く。	第4次 2 (1)	- 歴史に携わっている方のお話を聞くことで歴史への興味をさらに高める。 4か月にわたった学習をふり振り返り、自分の取り組みをしっかりと振り返らせる。



図55 遺跡発掘体験

(イ) 自分の思いを表現する能力やコミュニケーション能力を高める工夫

- ・グループで学習する場を多く設定する。
- ・自分の思いを表現したり、話し合ったりしなければならない場面を多く設定する。
- ・話し合う時の約束やルールを児童が話し合って決める。
- ・情報を整理・選択することで、より効果的な情報発信を工夫させる。

エ 学習を進める上での留意点

- ・学習の全体像を提示することによって、見通しをもった学習活動をさせる。
- ・時間を限定し、時間内で活動させる。
- ・情報機器を自由に使ってもよいが、何が一番効果的かを考えさせ、自分たちで取捨選択させる。
- ・ゲストティーチャーを招いて、広い視野から専門的な分野の学習を深めさせる。
(教育研修所情報教育部研究指導主事に



図56 現地調査の様子

よるコンピュータ指導、埋蔵文化財センター所長による歴史講演会)

- ・保護者に協力を要請すると同時に、学習の様子や成果を公開する。
- ・学校外に出ることが多いので、社会の一員としての公共のルールやマナー、礼儀等を身に付けさせる。

オ 結果

(ア) 学習の成果

- ・45時間という長い学習活動であったが、児童は意欲的に取り組むことができた。その理由として、第1に、取り組んだ内容が歴史だったということ。第2に、学習課程の中に楽しい活動や主体的な活動が適宜入っていたということ。第3に、限られた時間の中でやるという緊張感があったということが挙げられる。



図57 発表風景(掛け図やOHPの併用)

- ・コンピュータやデジタルカメラなどの情報機器に慣れ親しみ、使いこなすと同時に目的に応じて学習方法を取捨選択する姿が見られた。特にコンピュータを使ったプレゼンテーションだけでなく、オーバーヘッドプロジェクターや大判用紙などを併用して発表しているグループもあった。
- ・多くの情報を5分間という短い時間で伝えるとき、コンピュータによるプレゼンテーションは効果的だった。特に、発表と呼応するような画面を工夫したり、中原



図58 プレゼンテーション画面

中也の詩を朗読したりして、見る人や聞く人を意識した発表の工夫が見られた。

- ・ゲストティーチャーを招いたり、保護者の方に協力してもらったりしたことが、児童に新鮮でよい刺激を与えた。引率ボランティアに21名、発表会に40名の参加を得たことは、保護者の関心の高さを示している。

(ウ) 問題点

- ・現地調査の目的を児童一人一人が明確にもっていなかった。また、発表会で何を伝えたいのかがはっきりしていないグループがあった。例として、発表のときに観光パンフレットを棒読みしていたグループなどが挙げられる。
- ・発表の中で、歴史的な事実や名前を正確に記述できないグループがあった。
- ・事前調査でインターネット等が有効に活用できない児童がいた。
- ・コンピュータやデジタルカメラなどの情報機器に頼り過ぎた児童がいた。現地調査の際に、自分で理解しながらメモすることを怠り、掲示板を撮影したけれど後で字が読めなかったというグループなどがその例である。
- ・発表会における相互評価が十分に生かされなかった。
- ・公共交通機関内での児童の態度に問題があった。

(3) 今後の課題と展望

まず、総合的な学習の時間のもつ価値と目標を明確にして取り組まなければならない。また、カリキュラムや実践においても、各学校で特色を生かしたものが望まれる。全教職員が時間をかけて協議し、共通理解を図ることが今後必要になってくるであろう。

次に、「読む、書く、聞く、話す」といった基本的な学習能力を身に付けることが最も重要である。総合的な学習の時間にのみとられて、基礎基本がおろそかになってはならない。今一度、基礎学力の重要性を我々教職員が再認識し、研さんを積んでいくべきである。

また、情報機器の取り扱いについては、その効果や必要性について十分理解したうえで、道具として使用することが大切である。「学習に必要なから使う。学習に効果的だから使う。」といった活用の仕方が理想であろう。また、機器の選択能力も身に付けなければならない。さらに、たくさんの情報を整理選択して、人に分かりやすく伝達する能力も重要になってくると考えられる。

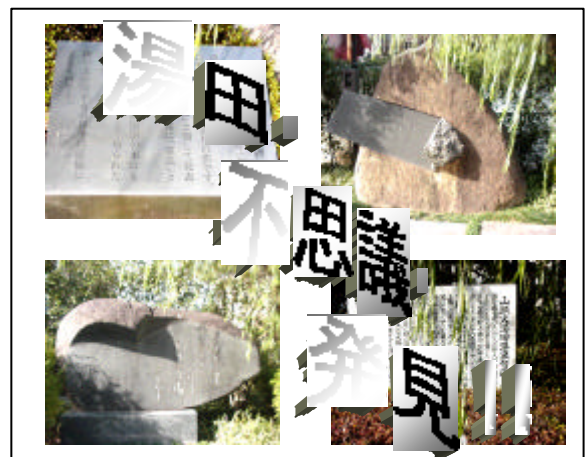


図59 プレゼンテーション画面

7 韓国ふれ合い隊（総合的な学習の時間）
～主体的に情報を活用して～

三隅町立明倫小学校

教諭 末永 昌子

(1) 研究の意図

コンピュータは私たちの生活のあらゆる面で活用され、大切な道具になりつつある。本学級の児童36名中29名（約80％）が家庭にコンピュータを所有していることからそのことがうかがえる。したがって、今後、児童にコンピュータの特徴を理解させたり、基本的な技能を身に付けさせたりすることが必要になってくると思われる。

しかし、「情報教育＝コンピュータ教育」ではない。情報は、私たちの周囲に様々な形で存在している。この情報化社会の莫大な情報量の中で生活していかなければならない児童は、自分の意思でしっかりと情報を活用する力を身に付ける必要がある。つまり、情報に対して主体的に取り組み、必要な情報を収集・選択・活用し、発信先の相手を意識した方法や内容で情報を伝達できるようになってほしい。そんな願いから「情報の主体的な活用」について、総合的な学習の時間を通して研究することにした。

(2) 研究の内容

ア 単元名

「出会い・触れ合い・深め隊」（年間単元）
～韓国ふれ合い隊～【国際理解】【情報】

イ 単元設定の意図

人間関係の希薄化が心配される昨今、様々な人との交流を通して人と触れ合うことのよさを感じ取ってほしいと考えた。そこで、様々な人との出会いを大切にし、心を通わせたいという児童の願いから「出会い・触れ合い・深め隊」という年間単元を設定した。この年間単元はさらに「韓国ふれ合い隊（国際理解）」、「元気・やさしさ伝え隊（特別養護老人ホームへの訪問）」、「感謝の気持ちで送り隊（6年生を送る会を成功させよう）」の

三つの単元から構成される。ここでは、「距離」や「言葉の壁」に悪戦苦闘しながら少しずつ情報活用能力を身に付けてきた「韓国ふれ合い隊」の実践を紹介することにした。

ウ 単元の目標

- ・日本と韓国の生活様式や価値観の共通点・相違点を知り、お互いの文化の良さを認め合う心情をもつことができる。（国際理解）
- ・様々な方法で情報を収集・選択・活用し、内容や相手を意識しながら適切な方法で情報を発信するなど、主体的に情報を活用することができる。（情報活用能力の育成）
- ・出会いを大切にし、相手の立場を考えて交流を深める中で、コミュニケーション能力を身に付けたり、人と触れ合うことの良さを感じ取ったりすることができる。（コミュニケーション能力の育成）

エ 学習の展開

(ア) 【情報の収集】「韓国の〇〇を調べよう！」

情報を収集する手段がたくさんあることを理解させることにより、主体的に調べ学習に取り組めるようにする。

- ・インターネット、電子メール
- ・図書、雑誌
- ・CD「韓国語入門」
- ・手紙
- ・電話、FAX
- ・現地取材（教師による）
- ・ゲストティーチャー

(イ) 【情報の活用】「作ろう！ KOREAN WORLD」

調べ学習が進むにつれ、「韓国に行ってみたい。」という児童の思いが膨らんできた。そこで、自分たちの「KOREAN WORLD」を作ることになった。

<韓国語・文字グループ>

簡単なあいさつ、数詞や身近な名詞の読み書きができるようになった。また、ハングル文字を五十音順に並べ替えているうちに、ハ

わ	ら	や	ま	は	な	た	さ	か	あ
	り	あ	み	ひ	に	ち	し	き	い
を	る	ゆ	む	ふ	ぬ	っ	す	く	う
	れ		わ	っ	ね	て	せ	け	え
ん	ろ	よ	も	ほ	り	と	そ	こ	お

図60 ひらがなとハングル文字

ハングル文字が母音と子音の組み合わせから成り立っているという仕組みに気付いた（図60）。
＜服装グループ＞

チマ・チョゴリ（正月・盆・結婚式・法事などで着用する女性用民族衣装）を製作した。教師が現地から調達してきた実物を参考に型紙をとり、布地の種類や量は予算を考慮しながら検討した。布の色や飾りなどに自分の思いや願いを表現して作成した。ミシンを使うのは初めてで、なかなか思い通りに作業が進まなかったが、休み時間や放課後も熱心に取り組み、作品を完成させた（図61）。



図61 完成しましたチマ・チョゴリ

＜食べ物グループ＞

韓国料理についてインターネットを中心に調べ学習を進め、クラス全員でキムチ作りに挑戦することになった。キムチにはそれぞれの家庭の味があることは知っていたが、ゲストティーチャー（在日韓国人）が隠し味として使った材料には児童も驚いていた。「からーい！でも、おいしい」というのが児童の感想であった（図62）。



図62 キムチづくり

＜スポーツ・遊びグループ＞

テコンドーや韓国お手玉について調べていたが、インターネットや図書などの静止画像からは様子がつかめず困っていた。韓国人留学生をゲストティーチャーとして招き、実演してもらった。他のグループもそれぞれがもつ疑問を解明する機会が得られた。韓国人留学生の金さんとの出会いで、韓国を身近に感じるようになった（図63）。

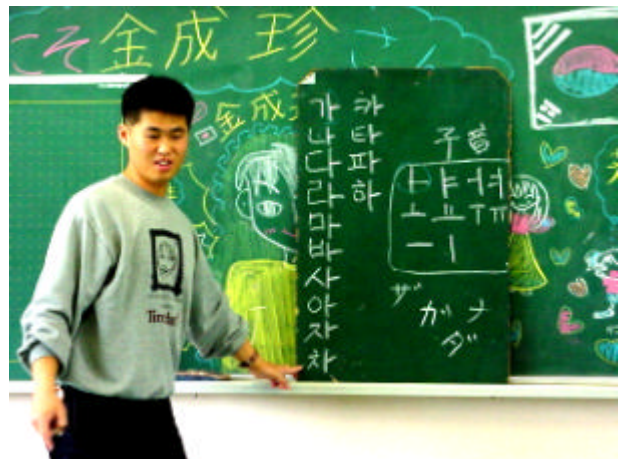


図63 韓国人留学生 金さんとの交流

(ウ) 【情報の発信1】「ようこそ! KOREAN WORLD へ」

「めいりんフェスティバル」(学習発表会)の学級コーナーとして「KOREAN WORLD」を開くことになった。これまで作ってきたものを全校の児童・保護者・地域の方々という様々な立場の人に向けて発信するため、テーマである「ふれあい」をいかにして図るかという

ことを話し合った。

<韓国語・ハングル文字グループ>

出入り口で「アンニョン ハセヨ」(こんにちは)、「アンニョン ヒカセヨ」(さようなら)とあいさつをしたり、ハングル文字の組み立てを大判用紙で説明したり、簡単な言葉を覚えるためのゲームをしたりした。



図64 チマ・チョゴリ試着コーナー

<服装グループ>

自分たちが作ったチマ・チョゴリの試着コーナーを作った。思い出に残るようにとデジタルカメラで撮影し、来校者にプレゼントした。自信をもって説明をしたり、着付けの手伝いをしたりした(図64)。

<食べ物グループ>

来校者に韓国で使われている金属製の箸で「豆つかみゲーム」を体験してもらった。目上の人を大切にするというルールを取り入れることで韓国の文化のよさを伝えた。また、キムチと韓国のりのレシピをオリジナルのキャラクター入りで作り、プレゼントした。

<お金グループ>

紙幣・硬貨を展示したり、物価のクイズをしたりした。会話によって触れ合いが図れるように、説明や解答をあえて表示しなかった。言葉遣いや説明内容をみんなで考え、触れ合いを深めることができた。

(I) 【情報の発信2】「深めよう! 友情」

その後、釜山市内の初等学校5年生男女各1名と交流をした。言葉の通じない相手にい

かにして思いを伝えるかを工夫した。

- ・写真「自己紹介・学校紹介」(日本語、分かる単語は韓国語で)
- ・手作り絵本「桃太郎」(ストーリーをとらえやすいように場面構成を工夫し、さらに挿絵に英語の単語を付け加えて)
- ・ひらがな五十音表(ひらがなの音を伝えるためにハングル文字に対応させて)
- ・ビデオ・レター「日本の遊び」(静止画像では伝えにくいものは動画で)
- ・電子メール・手紙「学校の様子・芸能人・流行している遊びなど」(個人的な交流)

(オ) 【情報の交換】「テレビ会議をしよう!」

本校は、同じ学校インターネット 参加校である萩市立明倫小学校と、総合的な学習の時間で交流している。そこで、テレビ会議を通じてこれまでの成果を伝え合うことにした。萩市立明倫小学校5年3組はアメリカについて、三隅町立明倫小学校5年生は韓国について発表した。情報を交換することにより、国際理解の視野をさらに広げることができた。

テレビ会議は、リアルタイムに画像と音声を送ることができるため、相手を身近に感じながら情報を伝達することができる(図65)。今後は、韓国の小学生とも直接テレビ会議で交流を深めてみたいと考えている。



図65 テレビ会議の様子

オ 主体的な学びをするための支援

(ア) メディアの特徴と技能の習得

様々なメディアの特徴と扱い方を知ること
で、児童は「文字だけでは伝わらないのでFAX
か手紙がよい。」とか「動きを伝えたいのでビ

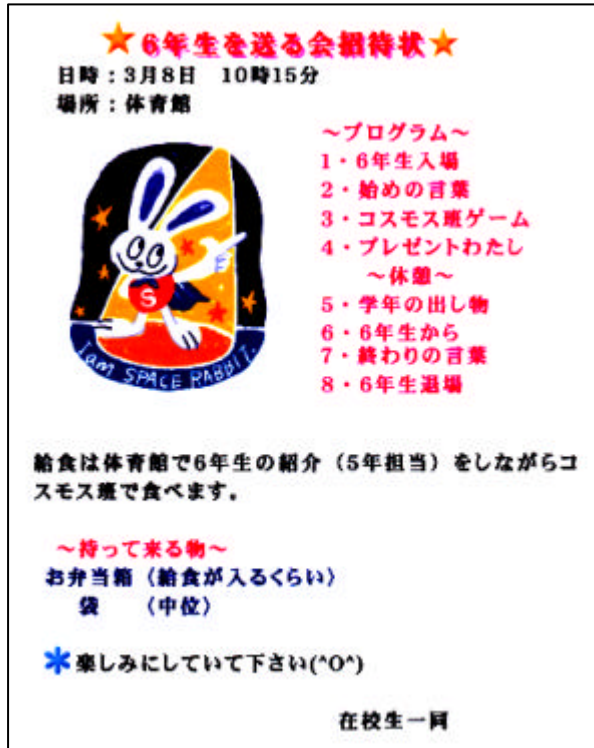


図66 ワープロソフトで作成した招待状

デオ・レターがよい。」など、目的に応じた手段を選択し、主体的に情報を収集したり発信したりすることができるようになった。私自身、コンピュータをはじめとするメディアの扱いは苦手であるが、必要最低限の扱い方と注意することを伝え、児童は大胆に使いこなして「先生、こうやるとこんなこともできるよ」と新しい機能を発見しては逆に教えてくれた。選択の幅を持たせることで児童は思いを膨らませ、主体的な学びを展開することができた（図66）。

(1) 電子メールの送り方・受け取り方

日韓・韓日翻訳ソフトで言葉を気にせず、情報のやりとりを行った。予算上低価格のものを購入したため、扱いが複雑であり、言語も少ないためスムーズな翻訳とまではいかなかったが、こういう手段もあることを学んだ。

(3) 総合的な学習の時間の成果と今後の課題

【国際理解】、【情報】という二つの課題から単元を構成したため、両方を達成できるかどうか心配したが、「距離」と「言葉の壁」というハンディがかえって児童の活動を意欲

的にし、課題解決へとつなげることができた。

これまで、コンピュータをはじめとするメディアを介しての情報のやりとりは、何となくそっけないイメージがあった。しかし、相手の立場を考慮したり、目的に合った発信の仕方を工夫したりすることで、言葉は通じなくても思いは通じることを実感した。交流はまだ始まったばかりである。本単元の学習は終わっても、この出会いを大切に、交流が続くものと信じている。

本単元を通じて身に付けた情報活用能力を、今後各教科の学習にも生かしていきたい。

<ある児童の振り返りのプリントより>

「韓国ふれ合い隊」の活動を通して

正直言って、初めは「韓国なんて・・・」と思っていました。けれども、調べていくうちに、韓国には日本と共通なところがたくさんあること。また、目上の人を大切にするというすばらしい考えがあることがわかりました。今では、韓国についてもっと調べたくなりました。

総合的な学習の時間を通してどんな力が身に付いたと思いますか？

- ・いろいろな方法で調べる力
- ・文や原稿をまとめる力
- ・グループの人をまとめる力
- ・初対面の人とでもうまくとけ込める力
- ・最後までやり通す力

<使用したソフトウェア>

- ・一太郎スマイル（JUSTSYSTEM）、キッズワード（エルゴシステム）：目的に応じてある程度長い文章を入力し、絵や写真を貼り付けて文章を作成することができる。
- ・はっぴょうめいじん（プレゼンテーションソフト：JUSTSYSTEM）：画像や音声を取り込むことができる。

8 生徒とともに作り上げる「卒業CD」

山口県立大津高等学校

教諭 窪井 博規

21世紀は、コンピュータを軸とするデジタル社会がさらにその発展を遂げる。しかし、0と1で埋め尽くされたデータ上に人の心を乗せる難しさは、行間に色々な気持ちを込められたアナログ時代の比ではない。だからこそ、これまで以上に至心を大切に、自分の生き方を確立しなければならない。そのような考えから、生徒の手によるクラス独自の「卒業CD」作成に取り組んだ。

(1) ねらい

世間では「情報教育」・「IT革命」という言葉が飛び交い、学校ではハードを中心にコンピュータが整備されてきた。高等学校では必修教科として「情報」が新設される予定である。

昨今の高校生は、インターネット等を利用し「情報を受け取る力」は高くなってきた。携帯電話等の端末機も爆発的に普及し、ほとんどの生徒は簡単に操作することができる。しかし、単語や顔文字などの記号を羅列したメールが、生徒たちの数少ない自己表現の場となってしまった現在、色々な弊害も生まれてきた。そのひとつに、自分で熟考した内容・情報を相手に伝える「発信できる能力（自己表現力）」の低下が挙げられるであろう。今回の“卒業CD”作成はその解決の一方策として考えたものである（表26）。

「マルチメディア」を利用することにより生徒は発想を自由に表現でき、興味を持って取り組むことができた。また、コンピュータに関する知識や技能を高めていくにも極めて有効であった。ただ、今回の研究事例は、生徒の自己表現力を高めるための試みであり、コンピュータはあくまでもそのツールとして利用したに過ぎないことを付け加えておきたい。

表26 年間計画

段階	月	内 容
イメージ作り	四月～六月	・「卒業CD」体験 ・過去に作成されたものを視聴 ・プレゼンテーション形式での作品 ・Web形式での作品
情報収集（教師・生徒全員）	七月～三月上	文化祭・運動会等の写真
		卒業式のビデオ
		当番日誌の反省・感想
		▼事前に連絡しておけば小論文指導にも効果的
		ランキング調査・集計
		ビデオメッセージ
		「座右の銘」・「10年後の私」等
		B5サイズ1枚で画像メッセージ（絵・写真・my新聞等）
		校内の名所やオブジェの写真
		屋上からの360度写真
		多数の先生からのメッセージ
		担任の個人呼名録音
		生徒の楽器演奏等の調査
入力	十二月～	・個々の技能や適性、進路決定の状況により5～10人の班を編成し作業を行う。
作成・加工	二月～三月	作成ソフトウェアの決定【注】
		・責任者（進路決定者）との協議
		バックグラウンドミュージック
		・6～7人でピアノ・箏曲演奏
		CDラベル等の作成（生徒用）
		・CDケースにも絵・写真を入れ込む
デモ	卒業式	・作成途中のCDを保護者とともに鑑賞
調整	三月上	・不具合調査（2～3人） ・プログラム修正
焼付け	三月中	・3台のCD-Rで書き込み速度を変えて焼付け、時間の違いを確認
配布他	三月下	・利用の手引き作成（メール等で受渡日連絡）
		追加...離任する先生用のCD作成 桜の押花を作成し正面ラベルに同梱

【注】作成ソフトウェアの決定について

生徒はプレゼンテーション形式を選択

・プレゼンテーション形式

再生するためにはソフトウェアが必要。ただし、インターネットからビューワーが無償提供される場合がある。

・Webページ形式

ブラウザがあれば見ることができる。

(2) 具体的な指導内容と作業の流れ

CD作成に当たり必要な技能として次のような内容の指導を行った。

ア コンピュータの操作方法

(ア) Windowsの起動と終了

- ・ソフトウェアの起動方法
- ・スタート→プログラム→...
- ・デスクトップ画面から

- ・マイコンピュータ→エクスプローラから

(イ) SCSI 接続機器とUSB接続機器の違い

(ウ) インテリマウスの操作方法

イ ワードプロソフトウェアやエディタの使用
方法

ワードプロソフトウェアとしてWord・一太郎を、エディタとしてEmEditorを使用した。

(I) キーボードの位置確認

ローマ字入力（生徒のレベルによる）

(オ) 保存形式の違いとその活用法

汎用性や保存ファイル容量の違い等

(カ) コピー・切り取り・貼り付け方法

(キ) 使用したメディア

HD、FD、MO、CD、CF

ウ ファイル操作

マイコンピュータ・エクスプローラの利用

- ・フロッピー・MOの初期化
- ・ファイルのコピー・移動・削除
- ・ごみ箱からの復活
- ・ごみ箱を空にする

エ インストールとアンインストール

(ア) 自動起動でインストールする場合と
setup.exeなどの「ファイル名を指定して

実行」する場合

(イ) ソフトウェア自体に含まれているアンインストールを利用する場合とコントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」を利用する場合

オ デバイスドライバの設定と対策

(ア) CD等から自動設定される場合とファイルを指定して設定する場合

(イ) 正常にインストールされなかった場合の対処方法

カ ピアツーピア接続のコンピュータ間ファイル操作

(ア) USBブリッジケーブルを利用

(イ) ローカルパソコンとリモートパソコンの確認

キ インターネットの利用

Microsoft Outlook Expressを使用し、添付ファイルのあるメールの送受信を体験した。

(ア) 添付ファイルの開き方・送信方法

- ・指導者から送信されたメールを受信し、添付ファイル（文書）の内容を閲覧
- ・内容確認後、添付ファイル付メールで返信

ク ファイルの圧縮・解凍・分割

(ア) 自己解凍型フリーソフトウェア+Lhacaの解凍

(イ) +Lhacaを利用してLHAユーティリティ32を解凍し.dllをWindows¥systemにコピー

(ウ) ファイルの圧縮・解凍・分割方法を指導

(I) 指導者から送信されたメールを受信し、圧縮した添付ファイル（文書）を解凍

(オ) 生徒は内容確認後、圧縮した添付ファイル付メールで返信

ケ スキャナの利用

Adobe Photo Deluxe、IrfanView32を利用して画像の簡単な加工をする。

(ア) bmpとjpeg画像の違い説明

(イ) 初歩的な画像の切り取り・貼り付け・拡大縮小・補正・加工等

(ウ) スライドショーの利用

コ デジタルカメラの利用

画像データをコンピュータに転送してから Adobe Photo Stitch を利用して画像を合成する。ただし、QuickTime の 360Viewer が必要になるので注意する必要がある。

- (ア) USB ケーブルでの転送と CF カードでの転送
- (イ) 360 度のパノラマ写真を屋上にて撮影・合成

サ 音声取込み

音量や入力方法などコンピュータの調節・設定を行った。

- (ア) ライン入力とマイク入力の 2 通りを体験・比較
- (イ) 録音した wav ファイルをサウンドレコーダーで編集して保存

シ ビデオの編集

高性能パソコンとソフトウェアが必要であったため他の教員に協力を依頼した。

ス ビデオから静止画の取り込み

卒業式のいろいろな場面も CD に入れるために、昨年度の卒業式を撮影したビデオから静止画の取り込みを試した。

- (ア) 卒業式の場面を切り出し、静止画を avi ファイルとして保存
- (イ) avi 形式のファイルから他の形式へファイルコンバート

セ PowerPoint の利用

プレゼンテーションソフトウェアとして PowerPoint を利用した。

- (ア) 基本的な操作方法
 - ・イメージは紙芝居と同じなので生徒は容易に理解した。
- (イ) 音声・画像・動画の貼り付け
 - ・タイムテーブルを作成し詳細に設定した。
- (ウ) スライドやファイル間のリンク
 - ・相対パスと絶対パス
 - ・相対パスでリンクを設定

ソ 汎用性を持たせるためのバック

PowerPoint で作成したスライドを別のコンピュータで実行する場合、必要なすべての

ファイルを 1 つのファイルにまとめ (バック) ておく。ファイル容量・機器性能により異なるが 30 分程度必要。

タ CD ラベル・インデックス等の印刷

らくちん CD ラベルメーカーで CD に貼付けするラベルとケースの背表紙を作成した。この背表紙は 1 枚の写真を大きく印刷し分割したもので、それをケースの裏ボタンを開けて指し込んだ。CD ケースを裏返し、それらを縦 4 ・横 8 の長方形に並べると思い出のハワイ旅行大写真 (約 50cm × 120cm) になるようにした。これだけは生徒に知らせず教員だけで作成した。

チ CD 焼付け

Adaptec Easy CD Creator を利用して CD を焼き付けた。

- (ア) 音楽データと文書データは焼付け方法が異なることを指導

- (イ) CD-R ・ CD-RW の違いを確認

ツ 取扱説明書の作成

CD の使い方や注意事項を書いた取り扱い説明書を作成した。

- (ア) Media Player ・ QuickTime のダウンロードとインストール方法
- (イ) PowerPoint がインストールされていないパソコンでの使用方法
- (3) 反省・感想・成果

LHR の時間を最大限利用したつもりだが、卒業 CD 作成だけに費やすこともできない。まして、ほとんどの生徒は受験を控えており、放課後等に多くの時間を取ることはできない。そこで、11 月以降は入力・作成等を分業制にし、放課後に進路が決まった生徒を中心に活動した。最初はキーボードの位置さえわからず苦戦していた生徒もいたが、完成品を夢見ながら熱心に取り組んでいた。また、情報収集時期と受験が重なり、コンピュータの操作に全員を関与させたかったが、実現できなかった。

過去の卒業 CD を視聴 (7 月) してから、当

番日誌の反省感想の内容が著しくレベルアップした。思わぬところで、自己表現力が向上していると感じた。小論文指導の一環になりえるかもしれない。

卒業式後のHRで、各々のケース裏表紙の写真が持つ意味を説明し、作成途中の卒業CDのデモを行った。皆がその感動を共感し、泣き、笑った。生徒・保護者・教員が一体になれる素晴らしい機会でもあった。その後も、作成する生徒への激励とともに完成品を早く見たいという期待と要望が耳に入ってくるので、卒業後も保護者を含めてクラスの和は高まっていた。

膨大な時間がかかるが、基本的な組み立てを一度作ってしまえば、データを入れ替えるだけでも結構いい作品に仕上がると思う。クラス担任をされている先生方は、是非この感動を味わっていただきたい。

卒業生（生徒）からのメールを紹介する。受信したものを掲載した。

返事が遅くなってすみません。勉・強が大変だったもので。個人写真の取り込みとスキャナをやった、苦労した事は、特にないですね。楽しかったです。完成したCDは、とても感動しました。素人が、こんなに立派な作品を作ったなんて凄いですよ。凄く大切に保管してます。あと、このCDをみんなで作ったら、より思い出深いものになったのではないのでしょうか。ロングホームルームを使ってとか..?！でも、案外少人数の方が、効率いいかも。

○ 作業内容

ピアノ録音個人データ打ち込み

○ 苦労した点

音が小さかったりして取り直しをしなければならなかったこと。3曲完璧に弾けるように練習するのが大変だった。

○ 次回への改善点

個人データの質問事項をみんなにアンケートを取ってきめたほうがいいのでは。（質問に答えてない人もいたので）動画の音が小さいのは何とかならないのですか？

遅くなってすみません！あたしがやった仕事はアンケートの集計で、苦労した事はないです。楽しかったです。卒業CDは家族にもかなり好評だったんですけどパソコンの使いかたが今イチ？なぜか自分ではなかなか見られません。学校の屋上からの風景は家族からもかなり好評でした！こんな感じでいいんですかねえ？役に立たなくてすみません！

・自分がした作業内容

もう、先生のご存知の通りで……。ワープロ入力・写真や動画、音声取り込み・スキャナ等機器の操作・CDコピー・音楽演奏・CD動作点検・統計処理……。など

・その作業で苦労した点

音声がきちんと録れてなかったり、資料が集まらなかったり、同じような画面をたくさん作らないといけなかったことしょーか。一人で黙々と作業するのは、辛かったです。

・作業を完了した後の感想

本当に肩の荷が下りたって感じです。ホッとしました。CD作成終了＝登校終了だったんで、すこし淋しかったですね。

・出来上がった卒業CDを見ての感想

みんな「すごーい！」って言ってました(^o^)

・今後作成した場合の課題・意見

うまくパックできなかったんで、次やるならうまくいくといいですね。ってカンジでしょうか。実践事例、がんばってください。

・自分がした作業内容

紙に書いただけ。

・その作業で苦労した点

何を書こうか迷った。

・作業を完了した後の感想

出せる力は、出し切った。

・出来上がった卒業CDを見ての感想

凄く面白いし、良い思い出が色あせない。最高です。

・今後作成した場合の課題・意見

先生方の動画が欲しかった。